

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502397		
法人名	有限会社レストケア		
事業所名	グループホーム ピーぶるマルシェ A		
所在地	札幌市南区川沿16条2丁目4番17号		
自己評価作成日	平成24年10月	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症はあっても出来るだけ自立した生活が送れる様、個々の把握に努め、支援を行っている。</p> <p>・看取りにも積極的に取り組み実践している。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502397-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年3月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療に携わってきた事業所代表が、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を考え、平成15年に開設している。閑静な住宅街にあって、すぐ近くに山や公園が隣接し、日常的に自然を感じながら過ごせる環境にある。管理者及び職員は「個人の人格を尊重し、安心と安らぎのある生活と地域交流を深める」という理念を、全てのケア場面で念頭に置きながら実践に取り組んでいる。事業所は利用者の高齢化が進む中、利用者がその人らしく終末期を迎えられることを考え、協力医療機関との医療連携を構築している。日常的に複数の医師による訪問診療や、24時間体制で看護師による健康管理が得られることは、利用者・家族にとって心強い支援となっている。また、事業所はこれまで数人の看取りの経験があり、その経験は管理者、職員ともにスキルアップに繋がる機会となっており、ケアに対する意識は高い。更に地域の一員として町内会の役員も引き受け、町内会の行事へ利用者も参加し、事業所のイベントに地域住民の参加があるなど地域交流を進めている。事業所の機能を活かしヘルパー養成の実習生も毎年受け入れ、専門的ケア技術を社会に還元するなど、地域に根差した事業所として期待できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を理念に入れ実践している。	「個人の人格を尊重し安心と安らぎのある生活、地域交流を深める」とする理念を掲げ、職員全体で毎朝唱和して実践に繋げるよう取り組んでいる。職員は日々のケアの基本として認識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、ホーム行事へ来て頂き交流を持っている。	事業所は町内会役員の傍ら、町内会行事の新年会や敬老会に利用者とともに参加したり、事業所行事の案内を地域に配布して呼びかけるなど交流に努めている。クリスマス会や夏祭りなどに地域住民や子ども達が訪れるなど日常的に交流が進みつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の為に実習生の受入、運営推進会議での認知症への理解を深める話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動や、行事の報告、ホーム内での会議の内容について報告している。	家族代表、町内会役員、地域包括の職員、管理者等で2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。利用者の状況を伝えるとともに事業所の行事や職員研修、実習生の受け入れなどの運営状況を説明し、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。	会議録も詳細に記録し家族へ送付しているので、今後は全家族への参加の働きかけと職員の参加も工夫しながら、多岐に渡る意見聴取と運営への更なる反映に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村への相談や、報告を行っている。	運営推進会議に参加する地域包括職員から情報を得ることが多いが、分からない事がある時は出向いたり、電話などで区の担当者に相談しアドバイスを得ている。また、定期的に来訪するケースワーカーを通して相談するなど、行政とは日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。自由に外出できるようにしている。	身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会を設け、毎月職員全体で検討している。外部研修を受講し認識を共有しながら虐待のないケアに努めている。日々のケアの中で不適切な行為と思われる時は都度話し合い、職員同士で確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い、職員の理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会へ参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明すると共に、転倒等のリスクについても説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、家族が来訪された際など要望や意見を聴き反映させるよう努めている。利用者の希望も取り入れている。	家族の来訪時に家族が話しやすい雰囲気作りに努めると共に、来訪できない家族には電話や手紙で希望を聞き実践に活かす様取り組んでいる。利用者の集う写真を主としたお便りを毎月家族に送っている。	毎月のお便りを活用し、利用者の暮らしぶりや月行事・予定などを含め事業所の様々な情報を提供するなど、より一層意見の活性化を図る取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスの場で意見を聴く機会を設けている。	毎月開催するユニット会議やカンファレンスの場で、職員と話し合い情報交換をしている。日頃から管理者と話しやすい関係にあり、都度話し合っている。また、その日の事業所の出来事を報告する中で、代表者は職員の提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対する支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議や研修会へ参加し、交流を持ち意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望や要望を聴き、不安を理解し信頼関係を作る事が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて、相談に応じ要望等を聴き、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じ、本人や家族の思いや困っている事に対して、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の力を発揮してもらい、役割を持って生活して行ける様支援し、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日々の生活状況を説明し、場合によっては協力を求め、共に支えているという関係性を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人等にいつでも面会できる体制をとっている。	本人が暮らしていた地域の友人や所属していた会の知人が訪れたり、家族の家に宿泊することもある。また、馴染みの理美容室に出かけるなど、それまでの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員を介して話をする場や機会を設けている。レクリエーション等での交流の場を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退居後も支援や相談に対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わる中で、表情や行動から意向をくみ取る様努めている。	思いをよく話す利用者もいるが、家族から情報を得ながら日々の関わりの中で、一人ひとりの会話や行動・表情から思いを把握し、意向に沿うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞き取りをし、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のペースを把握し、出来る事や出来そうな事は働きかけをし、行って貰える様努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報の共有をし、カンファレンスで意見を出し合い反映させている。	変化のない時は基本的に6ヶ月毎に介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリングを行い評価をしている。日々の記録と家族の希望を基に月1回ケア会議を職員全体で行い、現状に即した介護計画を作成し、変化時には都度見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や職員の気づきにより実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要や要望に応じてショートステイができる環境を整えている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町内の方と意見交換を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望に応じてかかりつけ医を決めて対応している。	家族の協力を得てかかりつけ医の受診支援をしているが、2ヶ所の医療機関から週2回訪問診療があることから、その機会に受診する利用者が多くなっている。他科を受診する時は事業所で受診支援することが多く、受診結果を家族に伝えている。訪問看護もあり変化時に早期対応ができる体制で、適正な医療が確保されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時、看護師に日常生活状況を説明し相談している。ホーム看護師に24時間相談連絡できる体制である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院とホーム間で情報を共有し長期入院により本人にダメージを受けない様協力し支援を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、医療機関とホームで連携を取り、安心して最期の時を迎えられる様支援を行っている。	重度化や終末期に関する指針を作成し、利用開始時に説明し本人・家族から同意を得ている。事業所ではこれまで本人・家族の希望で数人の看取り経験がある。医師や看護師、職員、家族等関係者で段階的に話し合い、利用者の思いに沿うことを優先に、穏やかな看取りとなるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修を受けた職員が、他の職員に対する研修報告をホーム内で行い、全員が出来る様にしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。訓練時は近所の方の参加もお願いし、地域にも災害時の避難の協力を呼び掛けている。	消防署の協力による避難訓練と、事業所の自主防災避難訓練を年2回開催している。地域住民の協力を得ながら、昼夜を想定して行っている。災害時のための備蓄は経営母体である会社の方で確保している。	予期せぬ自然災害が伝えられており、様々な災害対策の必要性が求められる。様々な場面想定や短期間での繰り返しの避難訓練も検討し、速やかな対応が出来る体制構築に期待したい。また、災害時の避難場所の再確認と、家族や職員への周知にも期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに行く時等、周囲の方にわからないように声掛けや対応をしている。	一人ひとりを尊重したケアを常に念頭に置き、プライドやプライバシーに配慮した声かけに努めている。排泄誘導もさりげない関わりを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度、声掛けや表情を読み取り、自己決定できるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重し、尋ねる事により好きな事を行って貰っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時に希望に応じて化粧をしたり、普段の外出の際も一緒に服を選ぶなどの支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けや盛り付けなど、一緒に行っている。	食材会社から届く食材を、利用者とともに職員が調理している。品目も多くバランスのとれた料理となっている。職員や利用者同士の会話を楽しみながら食卓を囲み、一人ひとりのペースに合わせゆっくりと食事をしている。力量に合わせ後片付けをする利用者もいる。時には外食を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の記録を付け、摂取量の把握を行っている。本人の好む飲物を購入したり、体調不良時にはゼリーなどで水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応に成った方にも排便を促す為、トイレでの排泄時間を設ける等、個々の状況に応じた対応をするようにしている。	衛生用品を使用する利用者が増えているが、日中は出来るだけトイレでの排泄を促し、自立排泄に向けた支援をしている。一人ひとりの習慣を把握し声かけ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な下剤の調整を行うと共に、運動する事を働きかけ予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望にそって入浴できる様配慮し、着脱時にタオルを掛ける等の対応を行うなど羞恥心にも配慮している。	週2回程度を目安に入浴している。入浴を拒まれる利用者も声掛けや対応を工夫しながら関わる中で、次第に入浴を楽しむようになっていく。時にはシャワー浴で清潔を保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に対しては、日中の活動量を増やしたり、眠れない時は、温かい飲み物を飲んで一緒に会話する等工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等で薬のく吹作用を理解し、一人で服薬が困難な方に対しては、介助キッチンと服薬で来たか最後まで確認する様に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る能力を把握し、洗濯物を干して貰う等、日常生活で役割を感じてもらえる様にしている。楽しみながら出来る様会話をしながら行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食べたい物を尋ね、希望に応じた外食をしたり、季節を感じられる様遠出のドライブを行っている。	花見や紅葉狩りなどドライブに出かけたり、利用者の希望に沿って町内会の行事や買い物に出かけている。夏場には近隣の公園や川沿を散歩するなど、戸外で過ごす機会を多くし変化のある生活を支援している。時には家族と出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物等、本人がおかねの支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話をする事も受ける事も出来、手紙を出す支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の後片付け時の他、日常生活全般において大きな音や不快に感じるような音を立てない様気を配っている。 季節を感じられる様な掲示物を展示している。	1階と2階に各ユニットが設けられ、同じ造りとなっている。室内には食卓セットやソファが置かれ、適度な共用空間が確保されている。壁には季節を感じる装飾品や行事での利用者の写真、手作り作品が飾られている。大きな窓からはすぐ近くに山並みが望め、日頃から自然を感じながら過ごせる環境となっている。不快な音もなくゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを置きくつろげる様にしている他、一人で過ごす事ができる様なスペースに椅子を置く等工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を居室に配置したり、夜間不安を感じる方に対しては、ベット位置を移動し、職員が見える様にするなどの工夫をしている。	各居室には利用者自筆の表札を掲げ、使い慣れた馴染みの家具・調度品や仏壇などを置き、それまでの生活の延長を感じながら過ごせるよう支援している。手作りカレンダーや書道作品、家族写真に囲まれて、居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや台所、洗面所に大きな字で目印を付け、声掛けや一人でその場所に行く事ができ、自立した生活が出来る様工夫している。		